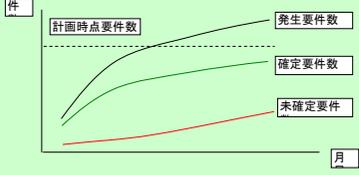
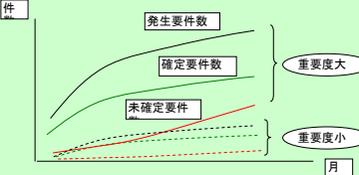
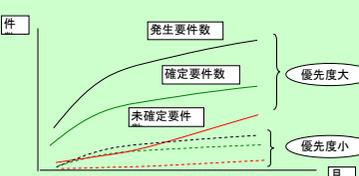
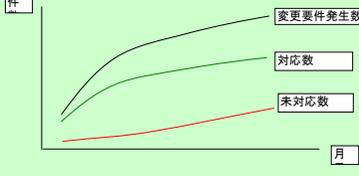


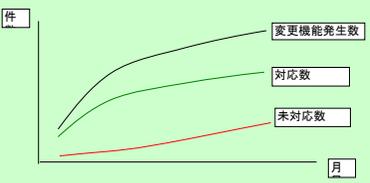
測定分析データ一覧表(スコープ)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度(左の導出尺度を求めるための測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
S1	スコープ		要件の総数から ・計画時点の規模と比較して要件の規模と変動を把握する。 ・確定していない要件の規模と変動を把握する。	★	PM、PMO	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画時点の要件数</li> <li>発生要件数の推移</li> <li>確定要件数の推移</li> <li>未確定要件数の推移</li> </ul> 未確定要件数＝発生要件数累計－確定要件数累計 	①計画時点要件数 ②発生要件数 ③確定要件数	①BS001 ②BS002 ③BS003	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に要件定義書から①②を収集する。	要件定義者	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画時点より要件の数が増加している場合、要件確定のための工数、期間が増えるとともに基本設計以降の工程の作業工数、期間が増加し、全体工期、コストを守れなくなる。</li> <li>要件の数が急激に増加あるいは減少した場合、顧客の考える目的、前提条件が変わった可能性がある。</li> <li>目的、前提条件の確認が必要。</li> <li>確定していない要件が多いあるいは増加傾向にある場合、その対応(要件確定)に工数と期間がとられ、基本設計に移れず、工期が守れなくなる。</li> <li>要件定義の後半で、確定要件数が急激に増加している場合、要員あるいは負荷を追加投入して短時間で無理やり要件定義工程を終了させ、本当は完全に確定していない可能性がある。</li> </ul>
S2	スコープ		要件の重要度の面から ・要件の規模と変動を把握する。 ・確定していない要件の規模と変動を把握する。		PM、PMO	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要度別発生要件数の推移</li> <li>重要度別確定要件数の推移</li> <li>重要度別未確定要件数の推移</li> </ul> 重要度別未確定要件数＝重要度別発生要件数累計－重要度別確定要件数累計 	①重要度別発生要件数 ②重要度別確定要件数	①BS004 ②BS005	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に要件定義書から①②を収集する。	要件定義者	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な要件の数が増加している場合、要件確定のための工数、期間が増える。</li> <li>重要な要件の数が急激に増加あるいは減少した場合、顧客の考える目的、前提条件が変わった可能性がある。</li> <li>目的、前提条件の確認が必要。</li> <li>重要な要件の数が増加している場合、計画の規模に抑えるために要件を絞り込んでも、重要度の高いものはスコープから外すことができず、スコープが増加することになる。</li> <li>その結果、基本設計以降の工程の作業工数、期間が増加し、全体工期、コストを守れなくなる。</li> <li>確定していない重要な要件が多いあるいは増加傾向にある場合、その対応(要件確定)に工数と期間がとられ、基本設計に移れず、工期が守れなくなる。</li> </ul>
S3	スコープ		要件の優先度の面から ・要件の規模と変動を把握する。 ・確定していない要件の規模と変動を把握する。		PM、PMO	<ul style="list-style-type: none"> <li>優先度別発生要件数の推移</li> <li>優先度別発生要件数の推移</li> <li>優先度別確定要件数の推移</li> <li>優先度別未確定要件数の推移</li> </ul> 優先度別未確定要件数＝優先度別発生要件数累計－優先度別確定要件数累計 	①優先度別発生要件数 ②優先度別確定要件数	①BS006 ②BS007	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に要件定義書から①②を収集する。	要件定義者	<ul style="list-style-type: none"> <li>優先度の高い要件の数が増加している場合、分割リリースをしても、最初にリリースするもの数が増加しており、工期を守れなくなる。</li> <li>優先度の高い要件の数が急激に増加あるいは減少した場合、顧客の考える目的、前提条件が変わった可能性がある。</li> <li>目的、前提条件の確認が必要。</li> <li>確定していない優先度の高い要件が多いあるいは増加傾向にある場合、基本設計に移れず、工期を守れなくなる。</li> </ul>
S4	スコープ		要件の内容変更の面から ・要件変更の規模と変動を把握する。 ・要件変更への対応状況を把握する。		PM、PMO	<ul style="list-style-type: none"> <li>要件変更発生数の推移</li> <li>対応数の推移</li> <li>未対応数の推移</li> </ul> 未対応数＝要件変更発生数累計－要件変更対応数累計 	①要件変更発生数 ②要件変更対応数	①BS008 ②BS009	発生の手数、要件変更管理表から①、②を収集する。	要件定義者	<ul style="list-style-type: none"> <li>要件変更が増加傾向にある場合、システムの目的が明確でない可能性がある。</li> <li>要件変更の数が急激に増加した場合、顧客の考える目的、前提条件が変わった可能性がある。</li> <li>目的、前提条件の確認が必要。</li> <li>要件変更未対応数が多い、増加傾向にある場合、その対応(要件確定)に工数と期間がとられ、基本設計に移れず、工期を守れなくなる。</li> </ul>

測定分析データ一覧表(スコープ)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定の目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求めるための測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
S5	スコープ		機能の総数から ・計画時点の規模と比較して機能の規模と変動を把握する。 ・確定機能数の推移 ・未確定機能数の推移		PM, PMO	・計画時点の機能数 ・発生機能数の推移 ・確定機能数の推移 ・未確定機能数の推移 未確定機能数=発生機能数累計-確定機能数累計 	①計画時点機能数 ②発生機能数 ③確定機能数	①BS010 ②BS011 ③BS012	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に要件定義書から①②を収集する。	要件定義者	・計画時点より機能の数が増加している場合 機能確定のための工数、期間が増えるとともに詳細設計以降の工程の作業工数、期間が増加し、全体工期、コストを守れなくなる。 ・機能の数が増加するあるいは減少した場合、要件が変わった可能性がある。要件の確認が必要。 ・確定していない機能が多いあるいは増加傾向にある場合、 その対応(機能確定)に工数と期間がとられ、詳細設計に移れず、工期を守れなくなる。
S6	スコープ		機能の重要度の面から ・機能の規模と変動を把握する。 ・確定していない機能の規模と変動を把握する。		PM, PMO	重要度別機能数の推移 ・重要度別発生要件数の推移 ・重要度別確定要件数の推移 ・重要度別未確定要件数の推移 重要度別未確定要件数=重要度別発生要件数累計-重要度別確定要件数累計 	①重要度別発生機能数 ②重要度別確定機能数	①BS013 ②BS014	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に基本設計書、機能一覧表から①②を収集する。	基本設計者	・重要な機能の数が増加している場合 機能確定のための工数、期間が増える。 ・重要な機能の数が増加するあるいは減少した場合、要件が変わった可能性がある。要件の確認が必要。 ・実現する機能を絞り込んで、重要度の高いものは除外できないため、スコープが増加することになり詳細設計以降の工程の作業工数、期間が増加し、全体工期、コストを守れなくなる。 ・確定していない重要な機能が多いあるいは増加傾向にある場合、 その対応(機能確定)に工数と期間がとられ、詳細設計に移れず、工期を守れなくなる。
S7	スコープ		機能の優先度の面から ・機能の規模と変動を把握する。 ・確定していない機能の規模と変動を把握する。		PM, PMO	優先度別機能数の推移 ・優先度別発生機能数の推移 ・優先度別確定機能数の推移 ・優先度別未確定機能数の推移 優先度別未確定機能数=優先度別発生機能数累計-優先度別確定機能数累計 	①優先度別発生機能数 ②優先度別確定機能数	①BS015 ②BS016	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に基本設計書、機能一覧表から①②を収集する。	基本設計者	・優先度の高い機能の数が増加している場合 分割リリースをしても最初リリースするもの数が増加しており工期を守れなくなる。 ・優先度の高い機能の数が増加するあるいは減少した場合、要件が変わった可能性がある。要件の確認が必要。 ・確定していない優先度の高い機能が多いあるいは増加傾向にある場合、 その対応(機能確定)に工数と期間がとられ、詳細設計に移れず工期を守れなくなる。
S8	スコープ		確定した機能の規模と変動を把握する		PM, PMO	ファンクションポイント数の推移 	①計画時点ファンクションポイント数 ①ファンクションポイント数	①BS017 ②BS018	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に基本設計書、機能一覧表から①②を収集する。	基本設計者	・計画時点よりファンクションポイント数が増加している場合 詳細設計以降の工程の作業工数、期間が増加し、全体工期、コストを守れなくなる。 ・ファンクションポイント数が増加するあるいは減少した場合、要件が変わった可能性がある。要件の確認が必要。

測定分析データ一覧表(スコープ)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
SS	スコープ		機能の内容変更の面から ・機能変更の規模と変動を把握する。 ・機能変更への対応状況を把握する。		PM, PMO	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能変更発生数の推移</li> <li>対応数の推移</li> <li>未対応数の推移</li> </ul> 未対応数=機能変更発生数累計-機能変更対応数累計 	①機能変更発生数 ②機能変更対応数	①BS019 ②BS020	発生の都度、機能変更管理表から ①、②を収集する。	基本設計者	<ul style="list-style-type: none"> <li>機能変更発生数が多い、あるいは増加傾向にある場合、要件定義が明確でない可能性がある。</li> <li>機能変更発生数が急激に増加した場合、要件が変わった可能性がある。要件の確認が必要。</li> <li>機能変更対応数が多いあるいは増加傾向にある場合、対応負荷・費用について顧客と合意がとれていない可能性がある。</li> <li>機能変更未対応数が多い、増加傾向にある場合、その対応(機能確定)に工数と期間がとられ、詳細設計に移れず工期を守れなくなる。</li> </ul>



測定分析データ一覧表(タイム)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定の目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集方法・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
T1	タイム		要件定義作業の進捗を把握し、計画との差異を確認する (以下4項目をグループ化)		PM,PMO	要件定義完成したドキュメントページ数の推移	①要件定義の完成したドキュメントページ数	1BT001	WBS、要件定義書で確認する。定期的(週次)に①を収集する。	要件定義者	・要件定義の進捗が計画より遅れている場合 要件定義を加速することにより、要件定義が不十分となる可能性があり、基本設計に於いて要件の見直しが発生して手戻りが生じ、コストの増加や、更なるスケジュール遅れにつながるリスクがある。  ・要件定義の進捗が計画より早い場合 新規システムの場合や担当者の経験が少ない場合などにおいては、要件を見落としている可能性があり、基本設計時に設計漏れが発生したり、要件の再検討を行ったりすることにより、品質の低下やスケジュール遅れにつながるリスクがある。
T2	タイム				PM,PMO	要件定義完成したドキュメント数の推移 (分冊時はドキュメント数) (分冊していない場合は、完了した章の推移)	①要件定義の完成したドキュメント数	1BT002	WBS、要件定義書で確認する。定期的(週次)に①を収集する。	要件定義者	
T3	タイム				PM,PMO	要件定義ドキュメント作成の進捗率 進捗率=完成したドキュメントページ数/計画ドキュメントページ数	①要件定義の完成したドキュメントページ数 ②要件定義の計画ドキュメントページ数	1BT001 2BT003	WBS、要件定義書で確認する。定期的(週次)に①、②を収集する。	要件定義者	
T4	タイム				PM,PMO	要件定義ドキュメント作成の進捗率 進捗率=完成したドキュメント数/計画ドキュメント数	①要件定義の完成したドキュメント数 ②要件定義の計画ドキュメント数	1BT002 2BT004	WBS、要件定義書で確認する。定期的(週次)に①、②を収集する。	要件定義者	
T5	タイム		基本設計作業の進捗を把握し、計画との差異を確認する (以下4項目をグループ化)		PM,PMO	基本設計ドキュメントページ作成の推移	①基本設計の完成したドキュメントページ数	1BT005	WBS、基本設計書で確認する。定期的(週次)に①を収集する。	基本設計者	・基本設計の進捗が計画より遅い場合 基本設計を加速することにより、基本設計が不十分となる可能性があり、後の工程に於いて基本設計の見直しが発生して手戻りが生じ、コストの増加や、更なるスケジュール遅れにつながるリスクがある。  ・基本設計の進捗が計画より早い場合 新規システムの場合や担当者の経験が少ない場合などにおいては、基本設計が不十分で、品質の低下につながるリスクがある。
T6	タイム				PM,PMO	基本設計ドキュメント作成数の推移 (分冊時はドキュメント数) (分冊していない場合は、完了した章の推移)	①基本設計の完成したドキュメント数	1BT006	WBS、基本設計書で確認する。定期的(週次)に①を収集する。	基本設計者	
T7	タイム				PM,PMO	基本設計ドキュメント作成の進捗率 進捗率=完成したドキュメントページ数/計画ドキュメントページ数	①基本設計の完成したドキュメントページ数 ②基本設計の計画ドキュメントページ数	1BT005 2BT007	WBS、基本設計書で確認する。定期的(週次)に①、②を収集する。	基本設計者	
T8	タイム				PM,PMO	基本設計ドキュメント作成の進捗率 進捗率=完成したドキュメント数/計画ドキュメント数	①基本設計の完成したドキュメント数 ②基本設計の計画ドキュメント数	1BT006 2BT008	WBS、基本設計書で確認する。定期的(週次)に①、②を収集する。	基本設計者	
T9	タイム		要件定義レビュー作業の進捗を把握し、計画との差異を確認する		PM,PMO	要件定義書のレビュー進捗率 = レビュー実績回数 / レビュー計画回数 = レビュー実績時間 / レビュー計画時間	①要件定義書のレビュー実施回数 ② " 時間 ③ " のレビュー計画回数 ④ " 時間	1BT009 2BT010 3BT011 4BT012	要件定義書のレビュー時に、レビュー記録から①を確認する	要件定義者	・要件定義のレビューの回数や時間が計画より少ない場合 レビューが不十分な可能性があり、要件定義の品質問題のため、基本設計に於いて手戻りが発生し、コスト増加やスケジュール遅れにつながるリスクがある。  ・要件定義のレビューの回数や時間が計画より多い場合 要件定義の品質が元々悪く、レビューを行っても十分改善されていない可能性があり、基本設計に於いて手戻りが発生し、コスト増加やスケジュール遅れにつながるリスクがある。  いずれの場合も、レビューの状況(手法、かけた時間、参加した人、検出された誤りと修正、完了時の状況など)を確認すべきである。
T10	タイム		基本設計レビュー作業の進捗を把握し、計画との差異を確認する		PM,PMO	基本設計書のレビュー進捗率 = レビュー実績回数 / レビュー計画回数 = レビュー実績時間 / レビュー計画時間	①基本設計書のレビュー実施回数 ② " 時間 ③ " のレビュー計画回数 ④ " 時間	1BT013 2BT014 3BT015 4BT016	基本設計書のレビュー時に、レビュー記録から①を確認する	基本設計者	・基本設計のレビューの回数や時間が計画より少ない場合 レビューが不十分な可能性があり、基本設計の品質問題のため、手戻りが発生し、コスト増加やスケジュール遅れにつながるリスクがある。  ・基本設計のレビューの回数や時間が計画より多い場合 基本設計の品質が元々悪く、レビューを行っても十分改善されていない可能性があり、手戻りが発生し、コスト増加やスケジュール遅れにつながるリスクがある。  いずれの場合も、レビューの状況(手法、かけた時間、参加した人、検出された誤りと修正、完了時の状況など)を確認すべきである。
T11	タイム	品質	要件定義レビュー指摘件数を把握し、未対応数が残っていないか確認する		PM,PMO	・要件定義レビュー時指摘件数の推移 ・要件定義レビュー時指摘対応数の推移 ・要件定義レビュー時指摘未対応数の推移 未対応数=指摘件数累計-指摘対応数累計	①要件定義レビュー時指摘件数 ②要件定義レビュー時指摘対応数	1BT017 2BT018	発生の都度、レビュー指摘管理表から①、②を収集する。	要件定義者	・未対応数がゼロに収束しなければ、スケジュール遅れにつながり、また、見切った工程に移れば、品質の低下や手戻りにつながるリスクがある。
T12	タイム	品質	基本設計レビュー指摘件数を把握し、未対応数が残っていないか確認する		PM,PMO	・基本設計レビュー時指摘件数の推移 ・基本設計レビュー時指摘対応数の推移 ・基本設計レビュー時指摘未対応数の推移 未対応数=指摘件数累計-指摘対応数累計	①基本設計レビュー時指摘件数 ②基本設計レビュー時指摘対応数	1BT019 2BT020	発生の都度、レビュー指摘管理表から①、②を収集する。	基本設計者	・未対応数がゼロに収束しなければ、スケジュール遅れにつながり、また、見切った工程に移れば、品質の低下や手戻りにつながるリスクがある。

測定分析データ一覧表(タイム)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定の目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度(左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
T13	タイム	品質	変更に伴う要件定義書改編作業の進捗を把握し、改編遅れがないか確認する		PM,PMO	・要件変更発生数の推移 ・要件変更発生に伴う改編頁数の推移 ・要件変更にもなう要件定義書改編完了数の推移 ・改編未完了 改編未完了数=要件変更発生数の累計-改編完了数	①要件変更発生数 ②要件変更にもなう要件定義書改編完了数 ③要件変更にもなう要件定義書改編頁数	①BT021 ②BT022 ③BT023	発生の都度、レビュー指摘管理表から①、②を収集する。	要件定義者	・改編未完了数がゼロに収束しなければ、スケジュール遅れにつながり、また、見切った次工程に移れば、品質の低下や手戻りにつながるリスクがある。
T14	タイム	品質	変更に伴う基本設計書改編作業の進捗を把握し、改編遅れがないか確認する		PM,PMO	・機能変更発生数の推移 ・機能変更発生に伴う改編頁数の推移 ・機能変更にもなう基本設計書改編完了数の推移 ・改編未完了 改編未完了数=機能変更発生数の累計-改編完了数	①機能変更発生数 ②機能変更にもなう基本設計書改編完了数 ③機能変更にもなう基本設計書改編頁数	①BT024 ②BT025 ③BT026	発生の都度、レビュー指摘管理表から①、②を収集する。	基本設計者	・改編未完了数がゼロに収束しなければ、スケジュール遅れにつながり、また、見切った次工程に移れば、品質の低下や手戻りにつながるリスクがある。
T15	タイム		クリティカルパスの進捗を把握し、全体工程への影響がないか確認する。 クリティカルパスが明確になっているかを見る		PM,PMO	・クリティカルパス明記の有無 ・クリティカルパスにある要件定義書、基本設計書作成の上記に記載の推移、進捗率	①クリティカルパス明記の有無 ②上記に記載のドキュメント作成数、レビュー回数等	①BT027 ②BT028	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時にWBS、マスタースケジュールで①、②を収集する。	PM	・クリティカルパスが明確になっていなければ、全体工程のスケジュール遅れの把握に手間取り、見逃して、対策が後手に回るリスクがある。 ・クリティカルパスの進捗が計画より遅れると、プロジェクト全体のスケジュールが遅れ、工程確保のために人員や工数が増大するリスクがある。
T16	タイム		マイルストーン達成の責任者が明確になっているか、的確に責任者がアサインされているかを見る		PM,PMO	・責任者のアサインの有無 (組織上の責任の取れる立場にある人のアサイン)	①責任者のアサインの有無 (組織上の責任の取れる立場にある人)	①BT029	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時にWBS、体制表からマイルストーン項目ごとに①を収集する。	PM	・アサインされていないと、進捗監視、問題解決が遅れ、スケジュールが遅れるリスクがある。また、一貫性のある意思決定が行われず、品質が悪化するリスクがある。



測定分析データ一覧表(コスト)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
C1	コスト		<ul style="list-style-type: none"> <li>コストの消化状況を見る。</li> <li>コストが計画を越えていないかを見る。</li> <li>当初計画にない対応を取る場合に、予算内で取れるコストを見る。</li> </ul>		PM,PMO	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算</li> <li>使った金額</li> <li>残っている金額</li> <li>残っている金額 = 予算 - 使った金額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①予算</li> <li>②使った金額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①BC001</li> <li>②BC002</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、収益管理表から収集する。</li> <li>②実施状況レビュー時に収益管理表から収集する。</li> </ul>	PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>使った金額がコスト計画より多い場合、問題が発生し、当初計画外の対応を実施している可能性がある。</li> <li>あるいは計画が甘い可能性がある。計画を見直す必要がある。</li> <li>使った金額がコスト計画より少ない場合、計画とおりに要員・その他リソースの調達・投入ができていない可能性がある。</li> <li>あるいは計画が甘い可能性がある。計画を見直す必要がある。</li> <li>当初の計画にない対応に必要な額が予備費内に収まらない場合、エスカレーションして追加予算の承認をとることが必要。</li> </ul>



測定分析データ一覧表(品質)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定の目的	重点項目	利用者	導出尺率 (左の導出尺率を求める為の測定データ)	ベース尺率 (左の導出尺率を求める為の測定データ)	ベース尺率ID	尺率の収集元・方法	収集者	導出尺率の見方、わかること
Q1	品質		【保守性・移補性】 要件定義プロセスにおける標準遵守の率合いを把握する ・標準に準拠する項目数の率合いをもとに評価する		PM、PMO	要件定義プロセスでの標準遵守率 標準遵守率=遵守している標準項目数/遵守すべき標準項目数  ここでの標準とは ・要件定義レビュー計画書 ・要件定義レビュー基準 ・要件定義書フォーマット ・要件定義書記入要領	①要件定義プロセスで遵守すべき標準項目数 ②要件定義プロセスで遵守している標準項目数	1BQ001 2BQ002	①要件定義開始時にプロジェクト計画書に記載の遵守標準一覧から収集する。 ②要件定義工程終了時に管理用ドキュメントをレビューすることにより収集する。	要件定義者もしくはレビュー担当者	標準遵守率が低い場合、要件の検討が不十分で必要な要件が網羅されていないなど、要件定義書の品質が低い可能性がある。
Q2	品質		【信頼性】 要件定義レビューが有効に機能しているか把握する	★	PM、PMO	・要件定義レビュー時の指摘事項数 ・ドキュメントページ数あたりの指摘事項数 =レビュー時の指摘事項数/ページ数 ・ファンクションポイント数あたりの指摘事項数 =レビュー時の指摘事項数/ファンクションポイント数  レビューでは、標準に遵守できていないことも指摘する。	①要件定義レビュー時の指摘事項数 ②要件定義書のページ数 ③ファンクションポイント数	1BQ003 2BQ004 3BQ005	①、② 要件定義工程終了時に、レビュー記録から収集 ③ RFP、提案書で見積を行った値、およびその見直しの値を用いる	PMもしくはレビュー担当者	指摘事項総数、ドキュメントページ数あたりの指摘数あるいはファンクションポイント数あたりの指摘数が少ない場合、レビューが不十分で要件定義書の品質が低い可能性がある。
Q3	品質		【信頼性】 要件定義レビュー結果への対処が確実に行われているか把握する	★	PM、PMO	レビューに基づいた ・要件定義書の指摘事項修正数 ・要件定義書の指摘事項未修正数 未修正数=レビュー時の指摘事項数累計-指摘事項修正数累計 ・要件定義書の指摘事項対応率 対応率=指摘事項修正数累計/レビュー時の指摘事項数累計	(総指摘数) ①要件定義書の指摘事項修正数 ②要件定義レビュー時の指摘事項数	1BQ006 2BQ003	①要件定義工程終了時に、レビュー記録から収集	PMもしくはレビュー担当者	修正数が少ない、対応率が低い場合を要件定義書の品質が低い。
Q4	品質		【信頼性】 要件定義レビューの指摘事項への個別の対応だけでなく、共通的あるいは基本的な対策を実施しているかを確認する		PM、PMO	要件定義書の ・指摘事項分析の有無 ・指摘事項分析結果による対策実施の有無	①要件定義書の指摘事項分析実施数 ②要件定義書指摘事項分析結果による対策実施数	1BQ007 2BQ008	①要件定義工程終了時に指摘事項分析報告書により確認 ②要件定義終了後に作業報告書より収集する。	PM	要件定義書の指摘事項分析および対策の実施がされていない場合、要件定義書の品質が低い可能性がある。
Q5	品質		【保守性・移補性】 要件定義プロセスの品質を把握する		PM、PMO	要件定義工程での手戻り工数の分布(平均、分散、個別、総計)	①要件定義工程での反復作業時間	1BQ009	①要件定義工程終了時に、作業報告書から収集 ①レビュー時、指摘事項対応報告書から収集する。	要件定義者もしくはレビュー担当者	手戻り工数が多い場合、レビューの仕方が悪く、要件定義書の品質が低い可能性がある。 レビュー方法を見直すことにより、効率の良いレビューとなり、生産性の向上が期待できる
Q6	品質		【保守性・移補性】 要件定義プロセスの品質を把握する		PM、PMO	要件定義工程での手戻り回数の分布(平均、分散、個別、総計)	①要件定義工程での反復回数	1BQ010	①要件定義工程終了時に、作業報告書から収集 ①レビュー時、指摘事項対応報告書から収集する。	要件定義者もしくはレビュー担当者	手戻り工数が多い場合、レビューの仕方が悪く、要件定義書の品質が低い可能性がある。 レビュー方法を見直すことにより、効率の良いレビューとなり、生産性の向上が期待できる
Q7	品質		【保守性・移補性】 要件定義プロセスの保守能力を評価する		PM、PMO	要件定義書の修復までの時間 修復までの時間=レビュー時指摘事項作成日時-レビュー時指摘事項対応日時	①要件定義書のレビュー時指摘事項作成日時 ②要件定義書のレビュー時指摘事項対応日時	1BQ011 2BQ012	①②レビュー時、指摘事項対応報告書から収集する。	PMもしくはレビュー担当者	修復までの時間が長い場合、要件定義者のスキルレベルが低い可能性がある。 あるいは、他の作業と競合するなど、担当者の作業負荷が高くなっている可能性がある
Q8	品質		【信頼性】 要件定義書の信頼性を把握する		PM、PMO	ドキュメントレビュー回数 ドキュメントレビュー回数=チーム内レビュー回数+プロジェクトレビュー回数 +ユーザーレビュー回数	①要件定義書のチーム内レビュー回数 ②要件定義書のプロジェクトレビュー回数 ③要件定義書のユーザーレビュー回数	1BQ013 2BQ014 3BQ015	①②③要件定義工程終了時に各レビューの報告書から収集する。	PMもしくはレビュー担当者	レビュー回数が少ない場合、要件定義書の品質が低い可能性がある。 要件の複雑率、難易度を考慮してレビュー回数を確認する必要がある
Q9	品質		【信頼性】 確定率合いに問題のある要件を特定する		PM、PMO	要件定義工程での手戻り発生したコンポーネント群 ・要件ごとの修正回数	①要件ごとの修正回数	1BQ016	①要件定義工程終了時に、コンポーネントの修正記録から収集	要件定義者	修正回数の多い要件は、目的が明確でない、あるいは目的に達していない可能性がある。 また、他の条件によって容易に変更される可能性も考えられるため、要件定義工程終了後も注意しておく必要がある
Q10	品質	スコープ タイム	【効率性】 システムの目標となる性能値が設計されているかを把握する		PM、PMO	性能設計進捗率  ・タスク進捗率 = 完了したタスク数/タスク数  ・トランザクション設計進捗率 = 設計されたトランザクション数/トランザクション数  (注)「設計されたトランザクション」には次に示す数値が具体化されていること ・トランザクション別処理速率の見積値 ・トランザクション別処理能力の見積値 ・トランザクション別リソース使用率の見積値 ・バッチ処理単位単位の処理時間 ・バッチ処理単位の見積処理時間	①完了した性能設計に関するタスク数 ②性能設計に関するタスク数 ③設計されたトランザクション数 ④トランザクション数	1BQ017 2BQ018 1BQ019 2BQ020	①②性能設計に関するWBSから収集する。 ③④基本設計書から収集する。 プロトタイプを作成して性能基準データを収集する場合は、プロトタイプの実績を用いて見積を行う。	基本設計者	進捗率が低い場合、性能設計が十分行われていない可能性がある。 一部の性能設計が漏れた場合、それが原因でシステム全体としての性能要件を満たせなくなる可能性がある。
Q11	品質	スコープ	【機能性】 システムに要求された機能の実現率合いを把握する		PM、PMO	システム機能実現率 実現率=実現システム機能数/要求システム機能数	①要求システム機能数 ②実現システム機能数	1BQ021 2BQ022	①要件定義工程終了時に要件定義書、から収集する。 ②基本設計工程終了時もしくは設計工程中に一定間隔で設計文書から収集する。	①要件定義者 ②基本設計者	実現率が1未満の時は、要求機能が実現できない可能性がある。要求元との機能レベルでの調整が必要になる。
Q12	品質		【保守性・移補性】 基本設計プロセスにおける標準遵守の率合いを把握する ・技術標準に準拠する標準項目数の率合いをもとに評価する		PM、PMO	基本設計プロセスでの標準遵守率 標準遵守率=遵守している標準項目数/遵守すべき標準項目数  ここでの標準とは ・基本設計レビュー計画書 ・基本設計レビュー基準 ・基本設計書フォーマット ・基本設計書記入要領	①基本設計プロセスで遵守すべき標準項目数 ②基本設計プロセスで遵守している標準項目数	1BQ023 2BQ024	①基本設計開始時にプロジェクト計画書に記載の遵守標準一覧表から収集する。 ②基本設計工程終了時もしくは設計工程中に管理用ドキュメントをレビューすることにより収集する。	基本設計者もしくはレビュー担当者	標準遵守率が低い場合、検討が不十分で基本設計書の品質が低い可能性がある。

測定分析データ一覧表(品質)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定目的	重点項目	利用者	導出尺率	ベース尺率 (左の導出尺率を求める為の測定データ)	ベース尺率ID	尺率の収集元・方法	収集者	導出尺率の見方、わかること
Q13	品質	技術	【保守性・移植性】 基本設計書の信頼性を標準適合の率合いから把握する。 ・設計内容が技術標準に準拠する成果物数の率合いをもとに評価する		PM、PMO	基本設計書の標準適合率 適合率=標準適合成果物数/成果物数	①基本設計書の成果物の為 ②基本設計書で標準に適合するの成果物の数	①BQ025 ②BQ026	①基本設計開始時に、プロジェクト計画書に記載の成果物一覧表から収集する。 ①基本設計工程途中の設計書レビュー完了時に、レビュー報告書から収集する。 基本設計工程途中の設計書レビュー完了時に、レビュー報告書から収集する。	設計者もしくはレビュー担当者	標準適合率が低い場合、設計内容が不十分であるなど、基本設計書の品質が低い可能性がある。
Q14	品質	スコープ タイム	【信頼性】 システムの目標となる障害回復時間が設計されているかを把握する		PM、PMO	信頼性設計進捗率 進捗率 = 設計された障害パターン数/設計すべき障害パターン数  (注)「設計された障害パターン」には次に示す数値が具体化されていること ・障害回復対象機器数 ・障害回復パターン数 ・障害回復パターン別回復対象リソース数 ・障害回復パターン別回復見積時間 ・リソース別バックアップ見積時間 ・リソース別バックアップタイミング ・交代系機器数 ・交代系機器別切り替え見積時間	①設計された障害パターン数 ②障害パターン数	①BQ027 ②BQ028	基本設計工程途中の設計書、レビュー完了時にレビュー報告書から収集する。	基本設計者	進捗率が低い場合、信頼性設計が根拠無く行われている可能性がある。 進捗率が1未満の場合、設計されていない障害パターンの発生によって、システムの信頼性が損なわれる可能性がある
Q15	品質	スコープ タイム	【機能性】 システムの目標となるセキュリティの設計がされているかを把握する		PM、PMO	セキュリティ設計進捗率 進捗率 = 設計されたセキュリティ機能数/設計すべきセキュリティ機能数  (注)「設計されたセキュリティ機能」には次に示す数値が具体化されていること ・利用組織数 ・利用組織別権限の階層数 ・見利用者数 ・利用者の追加、削除、訂正の見積数 ・システム化する機能数 ・他システムとのインターフェース数	①設計されたセキュリティ機能数 ②セキュリティ機能数	①BQ029 ②BQ030	基本設計工程途中の設計書、レビュー完了時にレビュー報告書から収集する。	基本設計者	進捗率が低い場合、セキュリティ設計が根拠無く行われている可能性がある。 進捗率が1未満の場合、システムにセキュリティ上の問題が発生する可能性がある
Q16	品質	スコープ タイム	【機能性】 システムに要求された機能の設計がされているかを把握する		PM、PMO	・画面設計進捗率 進捗率=設計された画面数/画面数 ・帳票設計進捗率 進捗率=設計された帳票数/帳票数 ・インターフェース設計進捗率 進捗率=設計されたインターフェース数/総インターフェース数 ・機能設計進捗率 進捗率=設計された機能数/機能数 ・データ項目設計進捗率 進捗率=設計されたデータ項目数/データ項目数(注1) ・データベース設計進捗率 進捗率=設計されたテーブル数/テーブル数(注2)  (注1)画面、帳票、インターフェースに現れるデータ項目 (注2)テーブルにはインデックスの設計、ビューの設計等の定義も含む	①設計された画面数 ②画面数 ③設計された帳票数 ④帳票数 ⑤設計されたインターフェース数 ⑥インターフェース数 ⑦設計された機能数 ⑧機能数 ⑨設計されたデータ項目数 ⑩データ項目数 ⑪設計されたテーブル数 ⑫テーブル数	①BQ031 ②BQ032 ③BQ033 ④BQ034 ⑤BQ035 ⑥BQ036 ⑦BQ037 ⑧BQ038 ⑨BQ039 ⑩BQ040 ⑪BQ041 ⑫BQ042	基本設計工程途中の設計書レビュー完了時に、レビュー報告書から収集する。	基本設計者	進捗率が低い場合、必要な設計対象が設計されていない可能性がある。 (ページ数での管理の裏付けとなる)
Q17	品質		【信頼性】 基本設計書レビューが有効に機能しているかを把握する		PM、PMO	・基本設計書レビュー時の指摘事項数 ・ドキュメントページ数あたりの指摘事項数 =レビュー時の指摘事項数/ページ数 ・ファンクションポイント数あたりの指摘事項数 =レビュー時の指摘事項数/ファンクションポイント数	①基本設計書レビュー時の指摘事項数 ②基本設計書のページ数 ③ファンクションポイント数	①BQ043 ②BQ044 ③BQ005	①、②基本設計時、レビュー記録から収集 ③RFP 提案書で見積を行った値、およびその見直しの値を用いる	PMもしくはレビュー担当者	指摘事項総数、ドキュメントページ数あたりの指摘数あるいはファンクションポイント数あたりの指摘数が少ない場合、レビューが不十分で基本設計書の品質が低い可能性がある。
Q18	品質	タイム	【信頼性】 基本設計書レビュー結果への対処が確実に行われているかを把握する		PM、PMO	レビューに基づいた ・基本設計書の指摘事項修正数 ・基本設計書の指摘事項未修正数 未修正数=レビュー時の指摘事項数累計-指摘事項修正数累計 ・基本設計書の指摘事項対応率 対応率=指摘事項修正数累計/レビュー時の指摘事項数累計	①基本設計書の指摘事項修正数 ②基本設計書レビュー時の指摘事項数	①BQ045 ②BQ044	①基本設計時、レビュー記録から収集	PMもしくはレビュー担当者	修正数が少ない、対応率が低い場合を基本設計書の品質が低い。
Q19	品質	タイム	【信頼性】 基本設計書レビューの指摘事項への個別の対応だけでなく、共通的あるいは基本的な対策を実施しているかを確認する		PM、PMO	基本設計書の ・指摘事項分析の有無 ・指摘事項分析結果による対策実施率  対策実施率=対策実施数/対策実施対象数	①基本設計書の指摘事項分析実施数 ②基本設計書指摘事項分析結果による対策実施数 ③基本設計書指摘事項分析結果による対策実施対象数	①BQ046 ②BQ047 ③BQ048	①③基本設計時に指摘事項分析報告書により収集する ②基本設計時に作業報告書より収集する。	PM	基本設計書の指摘事項分析および対策の実施がされていない場合、基本設計書の品質が低い可能性がある。



測定分析データ一覧表(人的資源)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
H1	人的資源		要件定義工程における体制の強弱を測定する。		PM、PMO	要件定義スキル(ITコーディネータ)の保有者率 ITコーディネータ相当のスキル保有者数/要件定義メンバ数	①ITコーディネータ相当のスキル保有者数 ②要件定義メンバ数	①BH001 ②BH002	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②を収集する。	PM	要件定義メンバの経験、見識の深さが推定できる。経験者が不足している場合、要件定義が不十分なまま次工程へ進んでしまう恐れがある。
H2	人的資源		要件定義工程における体制の強弱を測定する。	★	PM、PMO	要件定義工程における、対象業務分野(小売業とか保険業とか)の経験者率 対象業務分野経験者数/要件定義メンバ数	①対象業務分野経験者数 ②要件定義メンバ数	①BH003 ②BH002	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②を収集する。	PM	開発チームとしての対象分野への経験が分かる。経験不足の場合、プロジェクト計画が適切に立案できない可能性がある。
H3	人的資源		要件定義工程における体制の強弱を測定する。		PM、PMO	要件定義メンバのプロジェクト間業務率 Σ紐付け率/要件定義メンバ数	①要件定義メンバの当該プロジェクトへの紐付け率 ②要件定義メンバ数	①BH004 ②BH002	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②を収集する。	PM	要件定義メンバの業務の状況が分かる。組織上人数がいても、能力が高くて、業務率が高いと当該プロジェクトに対する十分な業務ができない。
H4	人的資源		要件定義工程における体制の強弱を測定する。		PM、PMO	要件定義メンバのプロジェクト間業務率 1-専任者数/要件定義メンバ数	①要件定義専任者数 ②要件定義メンバ数	①BH005 ②BH002	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②を収集する。	PM	要件定義メンバの業務の状況が分かる。組織上人数がいても、能力が高くて、業務率が高いと当該プロジェクトに対する十分な業務ができない。
H5	人的資源		基本設計工程における体制の強弱を測定する。		PM、PMO	基本設計工程における、基本設計業務経験者率 基本設計経験者数/基本設計メンバ数	①基本設計業務経験者数 ②基本設計メンバ数	①BH006 ②BH007	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②を収集する。	PM	基本設計メンバの経験、見識の深さが推定できる。経験者が不足している場合、基本設計が遅延したり、不十分なまま次工程へ進んでしまう恐れがある。
H6	人的資源		基本設計工程における体制の強弱を測定する。		PM、PMO	基本設計工程における、対象業務分野(小売業とか保険業とか)の経験者率 対象業務分野経験者数/基本設計メンバ数	①対象業務分野経験者数 ②基本設計メンバ数	①BH008 ②BH007	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②を収集する。	PM	基本設計メンバの対象業務に対する経験、見識の深さが推定できる。経験者が不足している場合、基本設計が遅延したり、不十分なまま次工程へ進んでしまう恐れがある。
H7	人的資源		基本設計工程における体制の強弱を測定する。		PM、PMO	基本設計工程における、対象プラットフォーム経験者率 対象プラットフォーム経験者数/基本設計メンバ数	①対象プラットフォーム経験者数 ②基本設計メンバ数	①BH009 ②BH007	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②を収集する。	PM	基本設計メンバのプラットフォームに対する経験、見識の深さが推定できる。経験者が不足している場合、基本設計が遅延したり、不十分なまま次工程へ進んでしまう恐れがある。
H8	人的資源		基本設計工程における体制の強弱を測定する。		PM、PMO	基本設計メンバのプロジェクト間業務率 Σ紐付け率/基本設計メンバ数	①基本設計メンバの当該プロジェクトへの紐付け率 ②基本設計メンバ数	①BH010 ②BH007	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②を収集する。	PM	基本設計メンバの業務の状況が分かる。組織上人数がいても、能力が高くて、業務率が高いと当該プロジェクトに対する十分な業務ができない。
H9	人的資源		基本設計工程における体制の強弱を測定する。		PM、PMO	基本設計メンバのプロジェクト間業務率 1-専任者数/基本設計メンバ数	①基本設計専任者数 ②基本設計メンバ数	①BH011 ②BH007	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②を収集する。	PM	基本設計メンバの業務の状況が分かる。組織上人数がいても、能力が高くて、業務率が高いと当該プロジェクトに対する十分な業務ができない。
H10	人的資源		プロジェクト管理体制の強弱を測定する。		PMO	プロジェクトマネージャのITSSレベル* プロジェクト管理チームメンバーの人数、ITSSレベル* * ITSSレベルとは、ITスキル標準(R)における職種「プロジェクトマネジメント」の中で、担当するシステムに該当する専門分野のレベルのことである	①プロジェクトマネージャのITSSレベル ②プロジェクト管理チームメンバーの人数 ③プロジェクト管理チームメンバーのITSSレベル	①BH012 ②BH013 ③BH014	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②③を収集する。	PM	プロジェクトの規模に比べて、PMのITSSレベルが低いあるいはプロジェクト管理チームメンバー数が少ない、ITSSレベルが低い場合、プロジェクト管理が十分にできない可能性がある。



測定分析データ一覧表(コミュニケーション)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
Cm1	コミュニケーション		各委託先、部門と十分にコミュニケーションがとれているか測定		PM、PMO	複数委託先(協力会社)部門の体制 ・階層数 → 会社数(部門数) ・開発拠点数(チーム毎の作業場所数) ・報告書の提出数	①階層数 ②会社数(部門数) ③開発拠点数(チーム毎の作業場所数) ④単位当り(週、月)の報告書提出数	①BCm001 ②BCm002 ③BCm003 ④BCm004	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時、実施状況レビュー時に①②③を体制表より、及びレビュー時に④を収集する。	PM PMO	数値が悪い場合、以下の事項が懸念される ①情報の共有が図れない、及び問題点が職制に上らないため、問題発点の指摘、方針の徹底ができず、設計品質が低下する可能性がある。 ②設計品質の低下により、組織への依頼、納期、費用、システム品質の悪化、更にメンバーのモチベーション低下が懸念される。
Cm2	コミュニケーション		要員ごとの会議の出席状況より、コミュニケーション度合い(コミュニケーション不足の要員がいないかなど)を測定する。		PM、PMO	会議出席率1 = (要員ごとの)会議出席回数 / 会議開催回数	(要員ごとの) ①会議出席回数 ②会議開催回数	①BCm005 ②BCm006	会議記録より、①②を収集する。	PM PMO	
Cm3	コミュニケーション		会議開催ごとの出席状況より、コミュニケーション度合い(出席予定数に比べて、出席者数が少ないかなど)を測定する。		PM、PMO	会議出席率2 = (会議開催ごとの)会議出席者数 / 会議出席予定者数	(会議開催ごとの) ①会議出席者数 ②会議出席予定者数	①BCm007 ②BCm008	会議記録より、①②を収集する。	PM PMO	
Cm4	コミュニケーション		組織、グループ、チーム間にまたがる課題がないか否かを測定する。		PM、PMO	各組織、グループ、チーム間の課題の数と解決期間	①課題数 ②解決期間	①BCm009 ②BCm010	実施状況レビュー時、収集。	PM PMO	



測定分析データ一覧表(リスク)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
R1	リスク		リスク全体をスポットで測定し、トップマネジメントに活用		PM、PMO	重要度、発生確率、緊急度、対応策有無のマトリックス	①重要度(大、中、小) ②発生確率(大、中、小) ③緊急度(大、中、小) ④対応有無(有、無)	①BR001 ②BR002 ③BR003 ④BR004	実施状況レビュー時、収集	PM PMO	発生しているリスクが大きい場合、プロジェクトが失敗する可能性がある。
R2	リスク		リスクの時系列変化を測定し、問題の早期解決を図る。 (リスク監視コントロール)		PM、PMO	一定期間における各リスクの発生度合い	①一定期間のリスク発生率 ②増減	①BR005 ②BR006	実施状況レビュー時、収集	PM PMO	
R3	リスク		リスクの要因を具体的に測定する。		PM、PMO	リスク要因とリスク度	①要件(ユーザ)の確実度 ②機能(実現)の確実度 ③ユーザとの分担の確実度 ④PKG使用度(活用度) ⑤システムの新規性 ⑥地域性(国内、海外)による プロジェクト遂行難易度 ⑦納期達成難易度 ⑧費用の余裕度 ⑨性能実現難易度 ⑩品質要求度 ⑪体制、ノウハウ要求度 ⑫進捗率	①BR007 ②BR008 ③BR009 ④BR010 ⑤BR011 ⑥BR012 ⑦BR013 ⑧BR014 ⑨BR015 ⑩BR016 ⑪BR017 ⑫BR018	実施状況レビュー時、収集	PM PMO	

ベース尺度一覧表 (リスク)

ID番号	名称	尺度分類 (1)	尺度分類 (2)	用途	単位	見積・実測	対象プロジェクト										対象工程										対象時期				対象タイミング もしくは管理工程						収集者					
							プロジェクト全体	サブシステム毎	業務ごと	成果物毎	機能毎	部門毎	測定項目毎*	各工程(完了時)	各フェーズ毎(完了時)	各ワークパッケージ	見積	受注	計画	プロジェクト計画書のレビュー	要件定義	基本設計	機能設計	詳細設計	ソフトウェアコード作成	単体テスト	結合テスト	システムテスト	運用テスト	検証	顧客側の受け入れ検査	対象工程開始時	対象工程終了時	月次	週次	日次	見積提出時	受注確定時	プロジェクト完了(後)	マイルストーン時	進捗会議	プロジェクト計画立案時
BR001	重要度 (大、中、小)	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR002	発生確率 (大、中、小)	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR003	緊急度 (大、中、小)	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR004	対応有無 (有、無)	属性	順序尺度	総合的分析	有無	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR005	一定期間のリスク発生率	数値	比例尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR006	増減	数値	比例尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR007	要件 (ユーザ) の確実度	数値	比例尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR008	機能 (実現) の確実度	数値	比例尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR009	ユーザとの分担の確実度	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR010	PKG使用度 (活用度)	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR011	システムの新規性	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR012	地域性 (国内、海外) によるプロジェクト遂行難易度	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR013	納期達成難易度	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR014	費用の余裕度	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR015	性能実現難易度	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR016	品質要求度	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR017	体制、ノウハウ要求度	数値	順序尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		
BR018	進捗率	数値	比例尺度	総合的分析	%	見積	○								○	○										○											○	○	○	○		

測定分析データ一覧表(モチベーション)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定の目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
M1	モチベーション		要員ごとの予定労働時間に対する労働時間など勤務状況により、(極端な労働時間の増加など)モチベーションに影響を与える要因を測定する。		PM、PMO	(要員ごとの) 労働時間(残業時間) / 予定労働時間(予定残業時間)	(要員ごとの) ①予定労働時間(予定残業時間) ②労働時間(残業時間)	①BM001 ②BM002	プロジェクト計画書のレビュー時に①を、実施状況レビュー時に勤務表より②を収集する。	PM PMO	①プロジェクトメンバの疲弊感、不達成感により、プロジェクトルールを遵守しなくなり、チームワークが乱れる恐れあり。 ②報告、問題提起が消極的になり、問題がプロジェクトの中で潜在化する。 その結果、プロジェクト失敗の恐れあり。 ③退社、転職等、人的流動で、ノウハウ流出し、知的財産の損失の恐れあり。
M2	モチベーション		要員ごとの現業に対するモチベーションを測定する。		PM	(要員ごとの) ・進捗 ・課題、問題と解決期間 ・報告書等、提出率	(要員ごとの) ①進捗 ②課題数、バグ数 ③問題解決期間 ④各種報告書提出数	①BM003 ②BM004 ③BM005 ④BM006	実施状況レビュー時、収集	PM PMO	



測定分析データ一覧表(組織)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定の目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
O1	組織	品質	要件定義書が組織としてレビューされているか測定する。		PM、PMO	要件定義書のレビュー達成率 = 要件定義書のレビュー実施回数 / 要件定義書のレビュー計画回数 要件定義書のメンバ参加率 = 要件定義書の参加実績者数 / 要件定義書の参加計画者数	①要件定義書のレビュー実施回数 ②要件定義書のレビュー計画回数 ③要件定義書のレビュー参加実績者数 ④要件定義書のレビュー参加計画者数	①BO001-BT009 ②BO002-BT011 ③BO003 ④BO004	要件定義書のレビュー時に確認する	PM	要件定義書が組織として計画通りにレビューされていない場合、プロジェクトの体制、スケジュールなど、プロジェクトの基本的な条件、役割が共有できていない可能性がある。
O2	組織	品質	基本設計書が組織としてレビューされているか測定する。		PM、PMO	基本設計書のレビュー達成率 = 基本設計書のレビュー実施回数 / 基本設計書のレビュー計画回数 基本設計書のメンバ参加率 = 基本設計書の参加実績者数 / 基本設計書の参加計画者数	①基本設計書のレビュー実施回数 ②基本設計書のレビュー計画回数 ③基本設計書のレビュー参加実績者数 ④基本設計書のレビュー参加計画者数	①BO005-BT013 ②BO006-BT015 ③BO007 ④BO008	基本設計書のレビュー時に確認する	PM	基本設計書が組織として計画通りにレビューされていない場合、プロジェクトの体制、スケジュールに問題がある可能性がある。
O3	組織		組織で定めたプロセス標準に基づいて作業を行っているか測定する。		PM、PMO	プロセス遵守率 = 実践しているプラクティス数 / 全プロセスエリア内で定義されたプラクティス数 ※カバーすべきプロセスエリアは組織やプロジェクトによって異なる	①実践しているプラクティス数 ②全プロセスエリア内で定義されたプラクティス数	①BO009 ②BO010	定期的(月に1回とか)	PM	組織で定めたプロセスを遵守できていない場合、重要な作業の見落とし、無駄な作業の実施、成果物管理の失敗、品質管理の失敗、進捗状況把握の失敗...などのリスクが発生する
O4	組織		組織として効率的に作業を行っているか測定する。		PM、PMO	生産性の推移 = 作成ドキュメント頁数 / 作成工数	①作成ドキュメント頁数 ②作成工数	①BO011 ②BO012	当該工程完了時	PM	生産性の推移を監視することにより、プロジェクトの疲弊を検知できる。 ①生産性が最初からあがらない場合は初期要求に問題ある可能性がある。 ②生産性が低下する場合、無理な要求の追加や要求のいつまでも明確になっていない可能性がある。
O5	組織	品質	組織として構成管理が標準どおりおこなわれているか測定する。		PM、PMO	ドキュメントのチェックイン/アウト回数の推移	①ドキュメントチェックイン回数 ②ドキュメントチェックアウト回数	①BO013 ②BO014	定期的(週次)に、構成管理システム(CVSなど)から①、②を収集する。	PM	①チェックイン、アウトが工程終盤にのみ行われている場合、構成管理が標準通りに行われていない可能性がある。 ②工程終盤で特定のドキュメントのチェックイン、アウトの回数が他のドキュメントに比べてチェックイン、アウトの回数が多い場合、要件、機能の変更が多く発生し、要件、機能が確定していない可能性がある。
O6	組織		作業環境の充足度からプロジェクトの置かれている環境を把握する		PM、PMO	作業環境に対して組織標準で定められた要件数とそのうちで充足された要件の数	①作業環境要件数 ②作業環境要件充足数	①BO015 ②BO016	プロジェクト立ち上げ時	PM	充足度が低い場合、要求への対応が十分でなく、メンバーのモチベーション低下につながる可能性がある。



測定分析データ一覧表(課題管理)

項目番号	知識エリア (主)	知識エリア (関連)	測定の目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
K1	課題管理		課題発生数、対応数を測定し、課題完了状況を把握する。		PM、 PMO	・課題発生数の推移 ・課題対応数の推移 ・未解決課題数の推移  未解決課題数＝課題発生数累計－課題対応数累計	①課題発生数 ②課題対応数	①BK001 ②BK002	発生の都度、課題管理表から①、 ②を収集する。	PM	未解決課題数が増加傾向にある場合は、工期遅延のリスクが増加する。 課題が増加しているにも関わらず、対応数の累計に変化がない場合、課題への対応が進んでいないということなので、解決の困難な課題の存在や、課題対応の適切な担当割ができていない可能性がある
K2	課題管理		未解決課題の影響範囲を測定・推定する。		PM、 PMO	影響度別未解決課題数  ＝影響度別課題発生数累計－影響度別課題対応数累計	①影響度別課題発生数 ②影響度別課題対応数	①BK003 ②BK004	発生の都度、課題管理表から①を 収集する。	PM	影響度の高い未解決課題がある場合、工期遅延のリスクが増加する。
K3	課題管理		未解決課題の緊急度を測定・推定する。		PM、 PMO	緊急度別未解決課題数  ＝緊急度別課題発生数累計－緊急度別課題対応数累計	①緊急度別課題発生数 ②緊急度別課題対応数	①BK005 ①BK006	発生の都度、課題管理表から①を 収集する。	PM	緊急度の高い未解決課題がある場合、工期遅延のリスクが増加する。



測定分析データ一覧表(技術)

項目番号	知識エリア (主)	知識エリア (関連)	測定目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
Te1	技術	品質	キャパシティプランニング実施の有無を測定する。		PM、PMO	キャパシティプランニング実施の有無	①キャパシティプランニング実施の有無	①BTc001	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時にキャパシティプランニング報告書から①を確認する。	PM	計画時にキャパシティプランニングが実施されていない場合、著しい工期遅延、製品品質の低下の可能性がある。キャパシティプランニングを実施する要員や支援部署がプロジェクトにアサインされていない可能性がある
Te2	技術		開発に必要な技術に対する要員ごと、または組織として利用経験を観ることにより、利用技術の新規性を測定する。		PM、PMO	利用経験の有無	①利用経験の有無	①BTc002	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時に体制表から①を確認する。	PM	利用経験なしの場合、著しい工期遅延、製品品質の低下の可能性があるというリスクが生じる。



測定分析データ一覧表(顧客)

項目番号	知識エリア(主)	知識エリア(関連)	測定の目的	重点項目	利用者	導出尺度	ベース尺度 (左の導出尺度を求める為の測定データ)	ベース尺度ID	尺度の収集元・方法	収集者	導出尺度の見方、わかること
Ko1	顧客	人的資源	要件定義工程における顧客の要件定義業務経験者率を測定する。	★	PM、PMO	要件定義工程における、顧客の要件定義業務経験者率 ＝要件定義業務経験者数/顧客要件定義対応メンバー数	①顧客の要件定義対応メンバーの要件定義対応業務経験者数 ②顧客の要件定義対応メンバー数	①BKo001 ②BKo002	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時に顧客側体制表から①、②を収集する。	要件定義者	要件定義工程における、顧客の要件定義業務経験者率が低い場合、要件定義の品質が低い可能性、および後の要件変更の可能性が高く、工期遅延のリスクが高い。
Ko2	顧客	人的資源	顧客の要件定義メンバーの負荷を測定する。		PM、PMO	顧客の要件定義メンバーの負荷率 ＝②要件定義メンバーの負荷/要件定義メンバー数	①顧客の要件定義対応メンバーの要件定義業務にかけ得る負荷 ②顧客の要件定義対応メンバー数	①BKo003 ②BKo002	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時に顧客側体制表から①、②を収集する。	要件定義者	顧客の要件定義メンバーの負荷が低い場合、要件定義の品質が低い可能性、および後の要件変更の可能性が高く、工期遅延のリスクが高い。
Ko3	顧客	人的資源	顧客の要件定義メンバーの業務負荷を測定する。		PM、PMO	顧客の要件定義メンバーの専任率 ＝専任者数/要件定義メンバー数	①顧客の要件定義対応メンバーの要件定義対応専任者数 ②顧客の要件定義対応メンバー数	①BKo004 ②BKo002	プロジェクト受注時、プロジェクト計画書のレビュー時に顧客側体制表から①、②を収集する。	要件定義者	顧客の要件定義メンバーの専任度が低い場合、要件定義の品質が低い可能性、および後の要件変更の可能性が高く、工期遅延のリスクが高い。

